

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

平成26年2月20日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会会議録

平成26年2月20日（木） 議会終了後 開議

1. 開 会
2. 議長あいさつ
3. 理事者あいさつ
4. 協議・報告事項
 - (1) 南信運転免許センター設置に向けた取り組みについて
 - (2) リニア地域づくりプロジェクトの取り組みについて
 - (3) 看護師等確保プロジェクトの取り組みについて
 - (4) 新SENA（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）について
 - (5) 中央自動車道法面の除草等の要望について
 - (6) 消防救急デジタル無線施設及び指令施設工事の進捗状況について
 - (7) 平成26年度議会日程について
5. 閉 会

全 員 協 議 会

平成26年2月20日

南信州広域連合議会事務局

南信州広域連合議会 全員協議会議

日 時 平成26年2月20日（木） 議会終了後
 場 所 飯田広域消防本部 3階会議室
 出席者 熊谷議員、下平（豊）議員、松村議員、森谷議員、小澤議員、中山議員、野竹議員、後藤（文）議員、宮嶋議員、片桐議員、小池議員、高坂議員、勝野議員、勝又議員、仲藤議員、本島議員、宮下議員、樋口議員、松井議員、白川議員、島田議員、湯澤議員、森本議員、小倉議員、湊議員、新井議員、清水議員、吉川議員、永井議員、福沢議員、木下議員、林議員、井坪議員、14市町村長、佐藤副管理者、金田事務局長、吉川事務局次長、渡邊事務局参事、山田消防長、桂消防次長兼総務課長、塩澤消防本部警防課長、松川消防本部警防課専門幹、三石消防本部予防課長、関島飯田消防署長、平岩伊賀良消防署長、北原高森消防署長、清水阿南消防署長、有賀消防本部総務課庶務係長、米山飯田環境センター事務長、北原飯田環境センター専門主査、園原飯田環境センター庶務係長、中原飯田環境センター管理係長、小林次長補佐兼介護保険係長、北原次長補佐兼庶務係長、近藤広域振興係長、片桐庶務係主事、山田下伊那郡町村会事務局長、秦野飯田市企画部企画調整係長

1. 開 会
2. 議長挨拶
3. 理事者挨拶
4. 協議・報告事項

No	項 目 名	資料	頁
1	南信運転免許センター設置に向けた取り組みについて …資料による説明（佐藤副管理者）	1	5
2	リニア地域づくりプロジェクトの取り組みについて …資料による説明（渡邊参事）	2	7
3	看護師等確保プロジェクトの取り組みについて …資料による説明（金田事務局長）	3	12
4	新SENA（三遠南信地域連携ビジョン推進会議）について …資料による説明（吉川事務局次長）	4	13
5	中央自動車道法面の除草等の要望について …資料による説明（井坪議員）	5	15

No	項 目 名	資料	頁
6	消防救急デジタル無線及び指令施設工事の進捗状況について …資料による説明（塩澤消防本部警防課長）	6	17
8	平成26年度議会日程について （北原書記長）	7	18

5. 閉 会

1. 開 会

午前11時40分

(林議長) ただいまから全員協議会を開催したいと思います。レジュメにはございますが、本会議に引き続いてでありますので、議長挨拶は省略させていただきます。

ここで広域連合長の挨拶をお願いいたします。牧野広域連合長。

(牧野広域連合長) 引き続き、先ほど、閉会の挨拶でも申し上げましたが、全員協議会につきましても、重要案件がありますので、よろしくお願ひしたいと思います。

ここで、このたび新しく村長になられましたお二方につきまして、御紹介させていただければと思います。喬木村の市瀬村長さん、それから阿智村の熊谷村長さんでございます。お二方には南信州広域連合の新たな一員として、頑張っただけければというふうに思っております。お二方から一言、御挨拶をいただければと思います。よろしくお願ひします。

(市瀬喬木村長) こんにちは。喬木村の市瀬と申します。前回の会議に続いて、2度目の会議に・・・させていただいております。まだ、1月に着任したばかりで、もとより浅学菲才の身でございますので、1日も早く、飯田、下伊那地域の連合の会議の仲間入りさせていただきまして、新しい地域づくりに一緒に努力してまいりたいと思っております。どうかよろしくお願ひいたします。

(熊谷阿智村長) こんにちは。ただいま御紹介いただきました、阿智村長の熊谷でございます。2月12日に初登庁以来、まだ1週間しかたっていないという、大変、新米でございます。皆様にぜひ、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

4. 協議・報告事項

(1) 南信運転免許センター設置に向けた取り組みについて

(林議長) それでは、4番の協議事項、報告事項に入っております。

初めに、南信運転免許センター設置に向けた取り組みについてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。佐藤副管理者。

(佐藤副管理者) それでは、本日、お配りいたしました、資料No.1をお願いいたします。1番の、これまでの協議内容及び県警の回答につきましては、2月5日の全員協議会のときに御説明した内容ですので、省略させていただきます。2番の今後の取り組み方針であります。2月14日の広域連合会議で議論いたしまして、センター設置場所を最終的に決めるのが県警本部ということで、これまでのように、こちらのほうで場所を絞り込んで、それに対しての回答をいただくというやり方ではなくて、広域連合事務局、それから飯田市の担当部局の担当者、それから県警本部の担当者による連絡会議という形で、設置条件の整備、具体的候補地の情報収集、データの整理等を行って行って、その結果を逐一、広域連合会議、議会に報告をしながら、場所の絞り込みを行って行って、それで早期に設置場所を決定するように目指していく。そういう取り組み方針で進めてまいりたいということで考えております。まだ、具体的に最初の連絡会議がいつ開けるかというのは先方と今、協議中で、できるだけ早期にとっておりますけれども、まだ1回目の連絡会議がいつかというのは未定でございますが、このような方針で進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

(林議長) 次期ごみ処理施設の整備の経過報告について説明が終わりましたが、御質疑はござい

ませんか。吉川秋利君。

(吉川議員) ちょっと基本的なことで確認したい。申しわけないんですが、基本的なことをお聞きしますが、この免許センターは県の資産で、運用が長野県警ということで、解釈すればよろしいのでしょうか。

それと、もう1つ、本体の免許センターは県のものであろうと私は思っておるんですが、それでいいとすると、じゃ、その周りの土地、駐車場、アクセスなんかについては地元が多分、いろいろと働かにかいかなのだらうなと思うんですが、その場合に、それは広域が主体となってやるのか、飯田市が主体となってやるのか、そこら辺のところをちょっと確認させていただきたいので、よろしくをお願いします。

(林議長) 佐藤副管理者。

(佐藤副管理者) 南信運転免許センターは県警の施設ということになりますので、運営経費等につきましては、県警が負担するということになります。それが施設として県が取得するのか、借りた格好で使うのかというのは設置場所によるということになると思います。

周辺の整備につきましては、例えば飯田市が市営の駐車場というような形で用意するということになると、それは市の負担ということになりますし、これも設置場所によって周辺環境の整備が地元として必要な部分が出てくるかもしれませんので、そのことにつきましては、また追ってお諮りすることなるかと思えます。

(林議長) 吉川秋利君。

(吉川議員) 何年もかかっているのについては、ちょっと進み方が、これから検討して、いろいろ決めていくという説明をいただいたんですが、もう少し、例えば広さがどのくらい要るのかとか、場所的に駐車場が何台くらい要るのかとか、飯田駅から例えば、飯田駅とすれば歩いて何分くらいなのか、タクシーで初乗り料金くらいなのか、そういったような具体的な検討というか、考え方というか、そういうものをやはり飯田市なり、広域で方向性を持って検討、話をしていくことが必要ではないかと、そんなふう思うんですが、今、話を聞いている中では、県と話をしながらと、具体的なものが示されていないように思うんですが、その辺の具体性についてはどんな考えを持っておるのでしょうか。

(林議長) 佐藤副管理者。

(佐藤副管理者) これまでは、広域連合として公共交通機関である飯田駅周辺がいいだろうということで、ピアゴを提案して、県警と協議してきたわけですが、具体的に駐車場が何台必要なのかというところ、これまではこちらから提示したピアゴという案に対して、いいとか悪いとかという議論をしていたわけですが、これからのつきましては、そもそも、最低何台必要かというようなことを改めて整理いたしまして、絞り込んでいこうということですので、その過程で県警から条件等が示されてくる中で、その条件について、また皆様方に御報告しながら絞り込みをしてまいります。

(林議長) 吉川秋利君。

(吉川議員) ピアゴの話は非常に理解に苦しむ話なんですが、過去の話としてお聞きしなかったんですが、県としてもつくと、飯田の周辺につくるということであれば、やはりある程度方向性を持って周りの皆さんに説明をし、意見を聞き、協力を求めてやっていく、そういうことが必要ではないかなというふうに思いますので、そういった積極的な対応を要望して終わります。よろしくをお願いします。

(林議長) 要望でございます。お聞きとめいただきたいと思えます。

ほかにございせんか。

白川靖浩君。

(白川議員) 1つだけちょっと確認したいと思いますけれども、この文書にあります、県警の見解として、飯田市及びその周辺としたいと書いてありますが、以前、広域連合としては一応、飯田駅周辺といったような文言になっていたと思うんですが、その辺のところはどう解釈したらいいのか、以前言っておったことは白紙ということで、最初から一歩から始めるという意味なのか、飯田駅と飯田市周辺とでは大分、考え方が違ってくると思うんですが、その辺はどうでしょう。

(林議長) 佐藤副管理者。

(佐藤副管理者) 広域連合として飯田駅周辺がいいだろうというふうにまとめた経緯はありますので、そこまで白紙にするということではないかと思えますけれども、そういったこちらの考え方も含めて先方からどういう条件なのかということ聞いた上で整理をしていく、そういうことであります。

(林議長) 白川靖浩君。

(白川議員) 飯田駅周辺は白紙じゃないということは、ちょっと県警の意見とは、また違った、これは向こうからの意見なもので、別っちゃ別かもしれんけど、私はやっぱり幅広く広域連合として見るんだったら、駅前にこだわらんように飯田市周辺ということでやっていったほうがいいような気がするんですが、どうでしょう。

(林議長) 佐藤副管理者。

(佐藤副管理者) 今、申し上げたのは、そういう経緯もありますよということをごちらから申し上げるといことで、それにかかわらず県警のほうから広く求めたいということであれば、そういう形で、また御案内することになると思います。

(林議長) ほかにございせんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) なければ、本件につきましては、聞きおくこととしたいと思えます。

(2) リニア地域づくりプロジェクトの取り組みについて

(林議長) 次に、リニア地域づくりプロジェクトの取り組みについてを議題といたします。

理事者側の説明を求めます。渡邊事務局参事。

(渡邊事務局参事) それでは、それでは本日お配りいたしました資料をごらんいただきたいと思えます。初めに、県のリニア活用の基本構想の案でございせん。50ページに及びせん本文と、それからその後に12ページの要約版がついてございせん。当地にかかわりせん非常に重要な課題でありますので、基本構想の本文の案もおつけいたしてございせんけれども、時間の関係もございせんので、要約版のほうで概略の御説明をさせていただきたいと思えます。要約版のほうをごらんいただきたいと思えます。

開いていただきますと、2ページ目のところに大きな構想ということでございせん。ここでは3つの複層的な圏域が想定されてございせん。伊那谷交流圏、それからリニア3駅活用交流圏、それから本州中央部広域交流圏、この3つの大きな交流圏を想定して構想をつくっていかうということであります。この中で伊那谷交流圏のところを見ていただきますと、想定地域といたしまして、具体的に長野県駅の駅勢圏としては、上伊那と飯伊地域を想定するんだということが明記されてございせん。

次のページ、3ページをごらんいただきますと、その3つの交流圏構想が目指すものといたしまして、この3つの交流圏を重層的に構築することで、交流人口の拡大など、リニア整備効果を最大化していくということ。目指すものとして、具体的にその下に3つございます。地域資源を生かして人々を引きつける。それから、我が国全体として、人口減少社会ではありますが、その中で交流人口を拡大する中で地域の活性化を図っていく。それから、日本の将来に貢献するというところでございます。

4ページのほうへまいりますと、伊那谷交流圏構想ということで、伊那谷交流圏の目指す姿ということで、ここにも大きく3つ書かれております。ここに書かれておりますことは当地域が平成22年に策定いたしました、リニア将来ビジョンに掲げます、小さな世界都市、あるいは多機能高付加価値都市圏といったようなこと、そのエキスも斟酌していただいているというふうに理解しております。

次の5ページをごらんいただきますと、その伊那谷交流圏構想の実現に向けてということで、地域振興、基盤整備、大きな2つの分野につきまして、具体的に5つの柱が立てられております。6ページ以降にその柱につきまして、具体的な方針、具体的なと言いますか、方針、それからキーワードということで整理されております。

6ページ、7ページが地域振興に関する部分。それから、8ページ、9ページの④と⑤が基盤整備の部分ということでございます。8ページのところに長野県駅の検討課題ということで、駅、駅周辺、いろいろ課題が提起されておりますが、先ほどの予算でも基金をお認めいただきましたけれども、将来的にここら辺のことが具体化してまいりますと、広域として飯田下伊那全体として、その部分の何を整備していくのかということが明らかになってくれば、基金の有用な、重要な用途の1つになっていくのかなと、そんなことも思っております。

それから、10ページには今度はリニア3駅活用交流圏構想ということで、岐阜県駅、それから、山梨県駅とあわせて、長野県駅をどんなふうにしていくのか、その3つの交流圏の目指す姿といったことが整理されております。

11ページには、その3駅交流圏構想の実現に向けてということで、ここにはキーワードの整備がされているということでございます。

最後の12ページは本州中央部広域交流圏構想ということで、目指す姿、実現に向けてといったことで、大きな課題等の整理がされているということでございます。

この構想につきましては、3月上旬までの予定で今、パブリックコメントの募集がされております。広域連合として何か意見を出していくかどうか、現時点ではまだ決まっておりませんが、もし何か意見を出していくというようなことになれば、また議長あるいは所管の検討委員会の委員長さんとも御相談させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

いずれにいたしましても、この構想が確定いたしましたら、新年度におきまして策定いたします広域計画の中にも十分反映させていかなければならないというふうに思っております。

次、資料2の2でございます。従前にもちよっとお話した経過がございますが、環境影響評価の準備書の段階で、共通課題につきまして、関係する自治体等々が集まる中で、少し具体的なと言いますか、情報を共有しながら、同じ方向で検討していこうということで、その課題等の整理をした、たたき台ということでございます。課題の概要等

につきましては、昨年秋に行われました準備書の説明会における質疑の中で共通すると思われること。それから、左の欄の二重丸がついております部分につきましては、去る1月9日に関係自治体、関係市町村が知事宛てに出した意見書の中で共通するもの、細かいものはいろいろありますが、大きく取り上げたほうがいいだろうと思われるものを、とりあえず整理いたしました。これが全てということではなくて、これはたたき台ということでございます。右のほうに星とりみたいな表がありますが、これはどんなところが集まってやっていったらいいかということでございますけれども、長野県と十分連携をとる中で、沿線の5市町村の部分につきましては、飯田市が中心になられていくんだろうというふうに思っておりますけれども、今後、掘削土の処分地やなんかが決まってくれば、その処分地の自治体、あるいはそこへの運搬経路に当たる自治体等々も加わっていただきながら、濃密な連携関係をつくっていったらどうかという、今、これはそういう考え方の案でございます。これにつきましては、今後、県また関係市町村等々と検討を深める中で具体化させていきたいというふうに考えております。また、具体的に動き出せば、また所管委員会等を通じて、検討委員会を通じて、議会側にも御報告をしてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから、お時間もありませんので、2の3の資料でございます。これは去る1月に県庁において開催されました、今のリニア活用基本構想とも関係してきますが、伊那谷の連絡会議の席におきまして、飯田市、伊那市、駒ケ根市、それぞれから御提言を、御発表がありました、それぞれの考え方というか、構想でございます。2の3、1ページ目は御承知のとおり、飯田市のものでございます。2ページ目、リニア中央新幹線による伊那谷のまちづくりというのは、伊那市さんから発表のあったものでございます。大きな交流圏の構想といたしますか、といったようなことが構造的に、少し模式的に整理されているということでございます。それから、3ページ以降が駒ケ根市さんから提示されたものでございます。3ページは大きな都市構造、それから4ページはその中で具体的なゾーニング、そして5ページがそのゾーンの1つであります、国際交流ゾーンの構想といったようなことが発表されたところでございます。伊那谷が一体になりながら、あるいは3市を中心に広域的な連携をとりながら、地域づくりを進めていこうということでございますので、また次年度以降におきましては、そうしたところとも具体的に交流しながら、構想の実現というのを図っていかねばならないというふうに考えております。

以上、簡単ではございますけれども、御説明にかえさせていただきます。

(林議長)

説明が終わりましたが、御質疑はございませんか。井坪隆君。

(井坪議員)

2点お願いします。1点は資料No.2の2の、たたき台です。これ、すごく褒めちゃいかんと、褒めたっていいんだけど、すばらしいと思います。つまり、環境影響評価の準備段階における、いろいろ課題を出すんですが、それが必ずしも県知事に全部受けとめられたとは限らないし、JRも聞いているかどうかかわからないので、やっぱり独自に地域で共通の課題を研究していくというのは物すごく大事なことだと思うんです。そのときに、次の問題はJRに全て任せ切りではなくて、広域連合独自でいろんな調査、研究あるいはコンサルに頼んだりして、私たちが独自のデータを持っていくということは物すごく大事だと思うんです。そういうときにも基金の使いようはあると思うのですが、その辺はいかがですか。

(林議長) 渡邊参事。

(渡邊事務局参事) 基金の用途につきましては、先ほど申し上げた、駅の関係することばかりではなくて、ソフト的な地域づくりのこと等につきましても、必要に応じて取り崩していこうということでございます。今、御指摘いただいたようなことにつきましても、もし必要が出てくれば、その都度、議会側とも御相談しながらということになると思います。

(林議長) 井坪隆君。

(井坪議員) もう1点ですが、県の示された構想を渡邊参事が一生懸命、説明するというのも何か不思議な形に見えるんですけども、一度、地方事務所に県のリニア担当がいる以上は、やっぱり県の説明というのをきちんと聞きたいとも思うんですが、そういうのというのはどうなんでしょうか、参事。

(林議長) 渡邊参事。

(渡邊事務局参事) 気がききませんで申しわけございませんでした。また、構想として、きちっと決まった段階では、また、そんな機会もお願いしていきたいなというふうに思います。

(林議長) よろしいですか。ほかにございませんか。湯澤啓次君。

(湯澤議員) 3点ほどお尋ねしたいんですけども、まず、資料の2ページ、交流圏構想のイメージ図なんですけども、①、②、③と分かれて、圏が重なっておるわけですけども、もう1点、資料の一番最後、12ページ、これ、長野県が以前出されたものですけども、縦軸、南北軸を非常に重視しているということだと思えます。私はこのことが非常に重要じゃないかなと思っているんですけども、リニアを実際に長野県駅を利用する人は、三遠南信の一部の人もかかってくるんだろうなと。そのように考えれば、県が12ページにこうして示している図というものと整合性を考えた場合に、2ページの図というものには、もうひと工夫があってもいいんじゃないか、そんな気がします。これは私の考えですけども、ちょっと御意見があればです。

2つ目は駅名についてなんですけども、駅名が素案では、リニア活用基本構想では長野県駅としております。隣は岐阜県駅、山梨県駅。長野県駅で(飯田市)とも記述はございますが、ところが資料をいただいた、No.2の3を見ますと、飯田市の場合もリニア中央新幹線駅としております。伊那の資料を見ますと、県内駅としておりますね。細かいことのようなんですけども、一応ここは、ある程度、統一性を持たせて、これから県との連携が非常に重要になってまいります。言葉について、私はやっぱり長野県駅(飯田市)、そういう表示が望ましいのではないかなという感じがしております。

もう1つは、No.2の3の、こういった各市が出されるということとはとてもいいことなんですけども、この資料、皆さん、3市及び広域で共有していくわけですよ。その場合、ある程度、ルールではないんですけど、決めていただきたいことがあるんです。伊那市さんのものを見ると、リニア中央新幹線による伊那谷のまちづくりという、大変なテーマでまとめていただいて、これを見ると何か伊那谷全体をまとめているように見えるんですけども、これはどこがつくったのか、伊那市さんがつくったんだということを確認しないと、あらぬ誤解を招きます。しかも、ここにはスマートインターには小黒川PAって黒く、駒ヶ根SAも黒丸が入っています。ところが、飯田周辺、黒丸が入っていないんです。やっぱりこういうことがありますので、ルールを決めていただきたいな。

3つ、御指摘といったほうがいいのかもかもしれませんけれども、ちょっとその辺、お考え

があれば、お聞きしておきたいと思います。

(林議長) 渡邊事務局参事。

(渡邊事務局参事) 最初の構想の部分につきましては、そういうお考えもあろうかなというふうに思います。そこら辺がパブリックコメントを出していくとすれば、1つのポイントになるのかなというふうには思います。

それから、駅名につきましては準備書で一応、長野県駅というような言われ方になっております。そこら辺はまた、これから当座、検討の段階での名称の統一ということは県のほうにもお諮りしていかないといけないというふうに思っています。

伊那市さんのものにつきましては、それぞれの時点での把握されている情報をもとに、こういうふうにおつくりになられているというふうに思っています。これを策定する段階で、それぞれが事前に調整したということではありませんので、これが1つのスタート台でございますから、これからこういう具体的な、それぞれ出されてきたので、こういうものをもとにしながら、お互いにどういうふうに連携しながらやっていこうかという話になっていくというふうに思います。そんなふうに御理解いただければなと思います。

以上でございます。

(林議長) ほかにございませんか。小池義郎君。

(小池議員) 長野県の案なんですけれども、私、これはこれで地域として非常にいいことだと思いますけれども、たまたま、この地域については岐阜県の中津川の駅も、これは当然、我々も頭に入れながら進めていくべきだと思います。それで、やはりリニアができて、飯田線、それから中央線のほうも当然、考えていきながら、私たちは岐阜県とも連携をとりながら、この地域を何とか発展するように考えるべきでないかな、そんなふうに思います。したがって、今の岐阜県とのそういうパイプ役はどのような形で進んでいるか。やはり、今のこの地域、あるいは、この駅ばかりではなくて、岐阜県の中津川も当然、頭に入れながら全体を考えて進めていっていただきたいなと思いますけれども、そこら辺はどのようなパイプ役で、長野県と岐阜県の関係はどのように進んでいるか、ちょっとお聞きしたいと思います。

(林議長) 牧野連合長。

(牧野広域連合長) 今のお話は、このリニア3駅の交流圏構想の中で、岐阜県駅の活用という形で書かれている部分でありますし、おととも長野のほうでリニアの岐阜県駅と長野県駅、それぞれの立地する市長さんが集まって、中部地方整備局が主催したシンポジウムでしたけれど、ここでも中津川の市長さんとも連携してやっていくんだというような、そういったお話もいただいてきているところでありまして、そういった意味では中間駅になる、そういった自治体との連携というのは、これから本格的にどのような形で進めていったらいいかということを検討していくということになると思います。

(林議長) 小池義郎君。

(小池議員) そういうことで、私、特に小さな、全体を考えながら、我々のこの地域が発展するように、ひとつ頭に入れながら努力していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(林議長) 要望でございます。

ほかにございますか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件については、お聞きおくこととしたいと思います。ここで暫時休憩といたします。

休 憩 午前 時 分

再 開 午前 時 分

(3) 看護師等確保プロジェクトの取り組みについて

(林議長) それでは、休憩を終わり、会議を再開いたします。

次の(3)の看護師等確保プロジェクトの取り組みについてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。金田事務局長。

(金田事務局長) それでは、資料3によりまして、これまでの看護師等確保プロジェクトの取り組みについて御報告申し上げます。本来でありますと、専門部会長でありまして、当プロジェクトの代表であります、泰阜の村長さんから御説明いただくべきところでございますけれども、本日、所用のため欠席されておりますので、事務局のほうから説明させていただきます。

1のはじめに、のところは、調査研究プロジェクトとして看護師等確保対策との問題に取り組むこととなった経緯などがございます。

2は、この間の検討の結果と、広域連合としての当面の方針の提案ということで載せております。前回、2月5日に全員協議会で御報告いたしましたとおり、このほど、飯田医師会を事務局としまして、飯伊地区看護師等確保対策推進協議会という組織が設立されたところでございます。この推進協議会の構成員と広域連合のプロジェクトの構成員とは重複することもございまして、検討はこの協議会のほうに引き継いでいきたいということでございます。ただ、既に広域連合として検討していく事項として、推進協議会の中でも広域連合としては、ナースバンクの活用ですとか、奨学金制度の創設なんかにについて検討してくださいよということを示されているところでございますので、引き続き、この点については専門部会としての検討を行っていくということになると思います。プロジェクトという形から専門部会での検討という形に、若干、変更にはなりますけれども、引き続き、検討していきまして、連合会議ですとか議会の皆さんと協議しながら、方策を練っていききたいと思っているところでございます。

2ページに行きまして、(1)は前回、御紹介しました推進協議会の設立の内容でございます。(2)で当面、検討する取り組み事項として、幾つか挙げさせていただいております。4項目を提案しているところであります。アにつきましては、求人情報の発信ということございまして、看護師の人材確保が難しいといいながら、ナースバンク制度ですとか、看護師養成校に対しましての求人情報の発信ということが、まだ十分ではないという認識でありまして、この辺をしっかりとっていくということでございます。

3ページにわたりまして、イからエの項目でございますけれども、この辺は看護師等を目指して、地元の飯田女子短期大学ですとか、近隣の看護師養成校に通っておられます生徒さんに対しまして、修学支援をするということで、奨学金制度設立ですとか、地元卒の確保等を挙げておりまして、卒業生の地元への定着につなげていければと考えているところであります。

3については、この間の検討の経過を記載しておりますので、またごらんいただければと思います。

また、本日、別つづりで資料編の抜粋をつけておりますけれども、こちらに載っておりますものは、報告書の中で脚注をつけておりますけれども、その脚注に記載されている資料の一部でございます。

なお、看護師数の将来見通しの点も、過去の検討結果の中で触れておりますけれども、看護師数というのは、診療報酬の影響というのを非常に大きく受けるものと聞いております。平成18年度の改定によりまして、7対1入院基本料というのが導入されて、看護師の不足というのが一気に全国的に加速したという経緯があるわけがございますけれども、ことし以降の診療報酬の改定では、この7対1入院基本料を算定できる病院というのは、これまでより病院の機能によって絞り込まれるという報道もございます。一方で、このところ、看護師養成校というのはふえ続けているわけがございますので、この先の看護師さんの需給というのに、今までどおりの状況で進んでいくのかどうかというのは、また少し違ってくるのかなというふうにも見ているところであります。

広域連合で、この先、検討していく上では、奨学金制度の創設を考えると、非常に創設するにも、維持にも多額の資金を必要とするわけがございますので、こうした看護師の状況の見通し等の情報収集ですとか、人材に確保に関する、いろんな情報を集めまして、その見通しを見きわめながら、対策を検討していきたいと考えているところでございます。以上、報告といたします。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件につきましては、聞きおくこととしたいと思います。

(4) 新SENA (三遠南信地域連携ビジョン推進会議) について

(林議長) 次に、新SENA (三遠南信地域連携ビジョン推進会議) についてを議題といたします。理事者側の説明を求めます。吉川事務局次長。

(吉川事務局次長) それでは、三遠南信地域連携ビジョン推進会議の新体制への移行について、御説明申し上げます。

資料No.4をごらんいただきたいというふうに存じます。まず、1番といたしまして、この連携ビジョン推進会議の説明でございますけれども、通称SENAというふう呼んでおりますけれども、平成20年3月に三遠南信地域連携ビジョンが策定されまして、その推進組織として発足した組織でございます。多少、名前が長うございますので、略してSENAというふう呼んでおります。平成24年度には連携ビジョンが掲げます連携事業を、より恒常的に行うために、組織強化をしていきたいということで、新連携組織検討委員会というのが組織、開催されまして、検討会されてきたという経過でございます。

その中で検討されましたものが、新SENAということでございまして、(2)のところにあります基本方針として新SENAへの移行の方向が示されたということでございます。①の既存の広域連携組織の統合による一本化という書き方をしてありますけれども、これは現在のSENAは、いわゆる行政だとか、民間団体、それぞれの連携組織がSENAに加入するという組織体制になっております。これを少しフラットな形にし

たいということで、各団体としての加入というふうに移行したいというのが、新SENA移行というものの1つの大きな目玉でございます。ですから、飯田下伊那の各自治体においても、各自治体ごと直接、SENAに加入するという形態に移行してまいりたいというものでございます。また、住民組織、大学との連携体制の強化でありますとか、事業推進の重点の確認でありますとか、推進体制の強化、第二次地域連携ビジョンの策定、新SENAと広域連合等の協力体制構築ということが、新SENAへ移行するに当たっての方針として示されているところでございます。

現在のSENAからの移行時期でございますけれども、現在、26年7月1日という方向で調整しております、年度内には正式に決定されるものというふうに思っております。

2番の部分でございますけれども、行政組織として、行政組織の連携組織として加入しているというお話をさせていただきましたけれども、それが行政とすると、三遠南信地域交流ネットワーク会議という組織になります。この組織につきましても、平成8年に三遠南信サミット、あるいはシンポジウムの行政側の受け皿として設立された組織でございます。ただ、SENAと類似点が多くありまして、目的意義も共通であることから、ネットワーク会議の側からSENAへ統合していきたいという申し入れをさせていただいたという、そういう経過がございます。統合時期につきましては、現在、新SENAの発足と同時に統合していきたいということで、検討しております。

統合の内容というところでございますけれども、現在、ネットワーク会議がやっている事業、主には3つでございます。ホームページの運営管理、それから災害時ロードマップという大きな地図とパンフレットのものを一体化したものでございますけれども、そういったものの作成。それから、担当者の研修会というものがあるわけでございますけれども、こちらにつきましては、SENAの事業ということで、新しい制度の事業ということで、引き継いでいただくという方針で、協議を進めています。また、会計につきましても、繰越金を新SENAのほうへ引き継ぐという方針でございます。新SENAの発足とともに現在のネットワーク会議はそこへ統合して、ネットワーク会議は解散するというところで、現在、準備を進めているところでございます。

3番でございますけれども、新SENA発足と同時に、伊南の4市町村が加入するという方向となっております。駒ヶ根、飯島、中川、宮田の伊南4市町村さんにつきましては、既に加入申し込みを正式にさせていただいております、いこの7月に発足予定のSENAに新たに構成員として加わっていただくという見込みとなっておりますので、よろしく申し上げます。

説明は以上でございます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。湯澤啓次君。

(湯澤議員) 新SENA、ますます力強くスタートするというところで、大変望ましいなと思っております。伊那谷という視点に立ったときに、駒ヶ根から宮田まで入ってくれたことは、大変うれしいなと思つた。伊那市はたしかオブザーバーというようなことも聞いたんで、ちょっと伊那とか辰野の動向をお聞かせいただきたいなと思つます。

(林議長) 理事者側の答弁を求めます。吉川次長。

(吉川事務局次長) 上伊那地域の残る町村さんに関しましては、現在のSENAにおきましてはオブザーバーという形で事業には参加していただいているという、そういう現状でございます。

す。ただ、新SENAの発足に当たっては正式加盟という状況には、まだ現在、ないわけでごさいます、事務レベルといたしましては、少しそんなお話もさせていただいているというような経過はございますけれども、最終的には、それぞれの自治体さんで御判断いただくべきものかと思っておりますので、今後の推移を見守りたいなというふうに思っております。以上でございます。

(林議長) 湯澤啓次君。

(湯澤議員) 新SENAでも正式はともかく、オブザーバー参加を認めるという理解でよろしいわけですね。

(林議長) 吉川事務局次長。

(吉川事務局次長) 現在、新SENAの組織の中で、具体的に行政組織としてのオブザーバー参加というのは想定されていない状況でございます。したがって、新SENAに移行した後に、その辺の扱いがどうなるかというのは、現在のところ未定という状況でございますので、その辺は、また内部で調整を図ってまいりたいというふうに思っております。そんな現状でございます。

(林議長) 湯澤啓次君。

(湯澤議員) リニアを、特にめぐってですけども、伊那谷自治体会議という動きが非常に、だから阿部知事も参加しやすいという感じがあるかと思います。やっぱり、この伊那谷が1つだという意識を絶えず持ちながら、三遠南信地域連携ビジョンの意義もしっかり伝えながら、ぜひ一致した行動をとっていただきたいと、ぜひ頑張っていただきたいと、これは要望です。お願いします。

(林議長) 要望でございますので、お聞きいただきたいと思えます。

ほかにございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件につきましては、聞きおくこととしたいと思えます。

(5) 中央自動車道法面の除草等の要望について

(林議長) 次に、中央自動車道法面の除草等の要望についてを議題といたします。

環境・福祉・医療検討委員会からの説明を求めます。環境・福祉・医療検討委員会委員長、井坪隆君。

(井坪議員) 本件の中央自動車道法面の除草等の要望につきましては、議会の環境・福祉・医療検討委員会からの提案により実施するとなったものでございますので、私のほうから説明させていただきます。

まず、経過から御説明いたします。この件は一昨年の平成24年に開催されました、環境・福祉・医療検討委員会におきまして、委員会所属の議員から、法面の除草が十分でないために景観を損ねているが、1町村の要望活動では解決できないために、ぜひ広域連合議会で取り上げてほしいという意見がございました。その委員会で検討を行いまして、管理者である中日本高速道路株式会社に対して、広域連合議会として要望活動を行うことを議会に提案することを確認いたしました。これを受けて、同年24年11月29日に開催された広域議会の全員協議会において、この件の提案を行い、皆様方の御賛成をいただいたものでございます。

ところが、その3日後でございましたが、笹子トンネルの天井板落下事件が発生いた

しまして、国内の注目がトンネルの安全性に向けられるという状況になりました。この地域におきまして、恵那山トンネルの下り線が同様の構造であったことから、まずは安全性の確保を優先させるべきとの判断もありまして、要望の実施については最近に至るまで保留してまいったところでございます。

御案内のとおり、恵那山トンネル下り線の天井板撤去も無事終了し、笹子トンネルの事故からも1年を経過をしたことから、そろそろ要望を実施すべきではないかとの、林議長からの判断をいただき、去る1月28日の開催後、環境・福祉・医療検討委員会におきまして協議し、お手元の資料5のとおり要望書を提出いたしたいとするものでございます。

次に、要望書の内容について、若干、御説明いたしますが、要望項目の記の2、中央道環境対策協議会は中央道沿線の市町村で構成する組織でございまして、毎年、環境対策に関する要望事項を取りまとめて、中日本高速道路株式会社に提出いたしております。この要望事項の中には法面の管理に関するものも多数含まれていることから、個別の要望項目等につきましては、これを参照願いたいとする、そういう趣旨でございます。要望書を提出する日程につきましては、中日本高速道路株式会社名古屋支社との協議の上、来る3月10日とさせていただきます、林議長と私でもって要望書を提出させていただく予定でございます。

最後に、今日に至るまで議会構成の改選の前の環境・福祉・医療検討委員会における木下克志委員長初め、議員各位の精力的かつ議会としての自立的なお取り組みがあったことを申し伝えまして、よろしく御協議いただきますように、お願い申し上げます。

(林議長) 説明が終わりましたが、本件につきまして御質疑はございませんか。樋口俊二君。

(樋口議員) 18番、樋口でございます。

この件につきまして、もう二、三年前、私のほうで当時の広域連合にお願いしまして、御努力いただいたものであります。こうして日の目を見ることができたことに対して敬意を表するものでありますが、質問といえますか、要望ですので、要望に対する質問ではありませんけれども、沿線住民の被害につきましては、ここに記されているとおりでございますけれども、当時、中央道の管理は道路公団が行っておりまして、民間に変わりました。そのときに特定財源が一般財源化されたり、民間になったということで経費節減のために、法面に防草シートを張って、そして雑木を植えました。当初はそれがよかったですけれども、特にくるみの木や何かが非常に繁茂して、景観を損ねる、あるいは、アメシロだとか、シラガダイオウの発生源になっておりまして、非常に住民が困っておるといふことで、果たして、この防草シートを張って、雑木を植えたことがよかったかどうかということをお聞きしたいわけでありまして、結果として、その検証はされたかどうかと。

それと、もう1つお聞きしたいのは、当時、中央道ができるときに土地を売却した方たちの集まりの中で、道路公団との話し合いの中で、高さ十数メートルにもなるような法面ができる。ここには木を植えないと、そういう一筆をとられているはずであります。それがほごにされて、木を植えられたということ。その整合性をどう考えておられるかということ、要望書提出のときにお聞きしていただければとは思いますが、もし、そんなことがおわかりならば、お答えいただきたいと思いますが。

(林議長) 要望書以外のことですが、委員長、よろしいですか。井坪隆君。

(井坪議員) 3月10日に議長とともに中日本高速株式会社にまいりますので、ただいまの防草シート、それから立木の件、あわせて先方に伝えまして、回答を得てまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

(林議長) ほかに御質疑はございます。

(「なし」との声あり)

(林議長) ほかにございませんので、本件につきましては、確認したことといたしたいと思えます。

(6) 消防救急デジタル無線施設及び指令施設工事の進捗状況について

(林議長) 次に、消防救急デジタル無線施設及び指令施設工事の進捗状況についてを議題といたします。

理事者側の説明を求めます。塩澤警防課長。

(塩澤消防本部警防課長) それでは、消防救急デジタル無線施設及び指令施設工事の進捗状況につきまして、御説明申し上げます。資料No.6のほうをごらんいただきたいと思います。この工事につきましては、仮運用を平成25年12月3日から始めておりまして、現在は警防課事務室、作戦室の工事を終えまして、3月14日に向けまして最終調整を行っているところでございます。

仮運用の概要を御説明申し上げます。消防救急デジタル無線につきましては、3局を新設しまして、6基地局で今までの不感地帯を解消しながら、災害時の通信を行っております。指令施設につきましては、資料のグリーン部分の丸数字でございまして、これが指令台での119番受付から出動までの機能を示したものととなります。右側の枠はその運用状況及び機能について示したものでございます。①では仮運用から昨日まで、約2カ月半経過したわけですが、119番受信から出動までの時間につきまして、前年と今年の1月の平均を比較したところ、約20秒の短縮となっております。今後、さらに短縮できるよう、運用を進めていきたいと考えております。

主なところといたしまして、①に関しては災害通報の受付に関するものですが、一般電話、携帯電話等からの119番通報と聴覚や音声、言語機能に障害がある方からのファクス119、メール119にも対応しておりますが、現在のところ通報のほうは受けていない状況であります。また、通報方法につきまして広報していきたいと思っております。

②につきましては、受信した119番から位置情報通知システムによりまして、一般電話や携帯電話等からの発信場所を特定するシステムとなりますが、携帯電話の電波状態あるいは機能等によりまして、位置が特定できない場合もございまして、今までどおり住所、番地、目標物をお聞きすることが必要となりますので、これについても機会を捉えて、広報してまいりたいと思っております。

④は火災発生時に登録されております消防職員、消防隊員等への携帯メールアドレスに火災情報と、右側に示してあります地図、これを送信することで災害現場への早い参集に対応できるものと考えております。

最後に本運用を開始するに当たりまして、3月14日に竣工式典を予定しております。

以上、御説明申し上げましたが、会議終了後に時間がございましたら、大分、完成しております指令室等をごらんいただければと思っております。以上、説明とさせていただきます。

だきます。

(林議長) 説明が終わりました。御質疑はございませんか。小池義郎君。

(小池議員) 11番、小池です。ちょっとお聞きしたいんですが、2番の災害地点の決定ということで、電話発信場所をすぐに特定し、地理不案内な方などに対してもスムーズに住所等が確認できると書いてあるんですが、例えば、全然知らん土地に行きまして、119番しますね。そうすると、その場所が携帯電話では、例えば119番をやると、全然知らん土地でもその場所がわかるということでもいいわけですね。そうすると、今、ここでこういう事故が起きたといった場合には、その位置が受信した人たちは、すぐわかるということ、そういうことで解釈していいでしょうか。

(林議長) 塩澤警防課長。

(塩澤消防本部警防課長) ただいまの御質問につきましては、携帯電話での通報というふうに受けとってよろしいでしょうか。

(小池議員) はい。

(塩澤消防本部警防課長) 携帯電話につきましては、いろいろな機能がございまして、GPS機能といたしまして、衛星を介しまして、その携帯電話のいる位置がわかる機能もございまして。また、その機能のない携帯電話もございまして、全てが、100%、その発信している場所が確定できるというものではございませんので、携帯電話によっては、ある程度、誤差が出てきますので、やはり、その近くにある目標物をお聞きすると。例えば、飯田市に来まして、地理に不案内な方が119番したときに、場所がわからない場合は、やはり近くにある目標物を言うていただくことが必要になってきます。100%、その発信位置が特定できるものではございません。

(林議長) 小池義郎君。

(小池議員) それと、もう一つ。例えば、今、ここで携帯電話をしたとしますね。その位置から移動したとしますね、その移動もキャッチしますか。例えば、119番へ連絡したと、そうすると、何か連絡が来るまで、その位置にいないと、その位置がわからないのか。例えば、こういう事故を起こして、連絡した人が移動した場合は、移動を追跡していくのか、それはどうなりますか。

(林議長) 塩澤警防課長。

(塩澤消防本部警防課長) それは、最初に119番をかけた位置が指令台の地図に表示されますので、その後、移動されましても、移動を追跡する機能はございませんので、最初に119番をかけて、受けた場所がうちの指令台のほうの地図のほうに表示されるということになりますので、移動してしまうと消防としてはどこへ行ったのかまでは追跡はできません。また、第2報で119番をかけていただければ、その位置が特定されますので、また可能になりますけれども、最初に119番をかけた位置が、うちの指令台の地図のほうに反映される仕組みとなっております。

(林議長) ほかにございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件につきましては、お聞きおくこととしたいと思います。

(7) 平成26年度議会日程について

(林議長) 次に、平成26年度議会日程についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。北原書記長。

(北原書記長) 資料No.7をごらんください。平成26年度南信州広域連合議会日程について、御説明します。

去る2月5日、議会運営委員会におきまして、平成26年度南信州広域連合議会の日程を御決定いただきました。5月19日月曜日に全員協議会、8月29日金曜日に全員協議会、この2つの全員協議会につきましては、御審議いただく案件が出てまいりました場合は臨時会とさせていただきますので、よろしく願いいたします。12月1日月曜日に平成26年第2回定例会、年が明けまして、平成27年2月23日月曜日、この日に平成27年第1回定例会、以上のような日程となりますので、御予定のほうをよろしく願いいたします。

(林議長) 説明が終わりましたが、御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(林議長) ないようでございますので、本件につきましては、確認したことといたしたいと思えます。

予定の案件は全て終了いたしました。

そのほかで何かございましたら、お出しいただきたいと思います。ないようでございますので、以上をもちまして、全員協議会を閉会いたします。

長時間、大変御苦労さまでした。

閉 会 午後1時29分